

五明地区タウンミーティング(要約)

テーマ：(1) 五明地区の地域おこし

(2) 地域の課題解決にむけて

平成28年3月27日(日曜日)

【市長】 皆さん、こんにちは。今日は3月27日の年度末の日曜日の午後ということで、皆さんお仕事やご家庭で何かと用事があったのではないかと思います。そのようなお忙しい中、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。この五明地区のタウンミーティングの開催にあたりまして、まちづくり協議会の会長さんをはじめ、役員の皆様のお力添えをいただきました。本当にありがとうございます。このタウンミーティングですが、私の1期目の公約、また2期目の公約に掲げていまして、1回目に開催させていただいたのが、こちら五明地区でした。平成22年11月末の選挙で皆様にご支援をいただき、就任させていただいた1カ月半後の平成23年1月中旬に五明のタウンミーティングからスタートいたしまして、今日で91回目になります。このタウンミーティングはもともと、皆さんが市役所に来られるのを待っているほうが楽ですが、果たしてそれでいいのでしょうか、もっと現地現場を大切にしましょう、市民目線を大切にしましょう、ということで始めさせていただいています。台本なしの1時間半ですので、皆さんからご意見をいただいて、できるだけこの現場でお答えをして帰ります。中には国と関係するもの、県と関係するもの、財政的な問題があるもの、そのようなものはいいかげんな返事をして帰るわけにはまいりませんので、いったん持ち帰らせていただいて、1カ月を目処に必ず返事をさせていただく、やりっぱなしにはしない聞きっぱなしにはしないというタウンミーティングでございます。松山市は41地区に分かれますが、市長の任期は1期4年、月にすると48カ月です。最初は1カ月に1地区のペースで回っていけばいいかなと思っていましたが、やりっぱなしにはしない聞きっぱなしにはしない、魅力は伸ばす課題は減らすというタウンミーティングですので、おかげで好評になりまして、2年2カ月に1巡をして、そして1期4年の間に2巡りをして、今は新しく職業別のタウンミーティングということで、農業関係の方々や商店街の方々に集まっています。また、世代別のタウンミーティングといまして、子育て世代や大学生世代の方にも集まっています。人生の先輩方に集まっておくシルバー世代のタウンミーティングがまだできていないので、したいなと思っていますが、こういう形でタウンミーティングを重ねています。今日も90分ですが、肩ひじ張って緊張しているとしんどい90分になりますので五明で3回目のタウンミーティン

グとなりましたから、あまり緊張なさらずに、ざっくばらんに、今日は有意義な意見交換ができればと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【司会】 それでは、テーマ趣旨について市長からご説明いたします。

【市長】 今日のテーマですが、まちづくり協議会さんをご相談させていただく中で、「五明地区の地域おこし」、「地域の課題解決にむけて」にさせていただき、一応区切りはつけていますが、あまり気になさらずに日ごろ思っていらっしゃることを述べていただいたらと思います。皆さんもニュース、新聞などでお聞きになるとと思いますが、人口減少とよく言われています。「わしゃ税金が払いとうてたまらんのよ」という人は、まずいないと思います。でも、我々がまちづくりをする上で、例えばゴミの回収をするにしても、ゴミを集める人、ゴミ収集車が必要です。ゴミ焼却施設にしても、何でやらせていただいているかということ、税金で賄わせていただいています。人口減少すると働いて税金を納めてくれる人の数が少なくなる。また、人口減少、高齢化社会と言われていて、私も今年で49になりますが、いずれお世話になっていく世代です。働く人は少なくなって、お世話になる方が増えていくという世の中ですので、この人口減少社会、また高齢化社会、何とか皆さんと一緒に解決をしていかなければならないと思っています。そんな中、ありがたいのは五明地区にまちづくり協議会ができていているということです。平成23年の4月に、こちらのまちづくり協議会の総務部、生活部、産業部が組織されまして、色んな取り組みをされていますので、大変心強く思っています。やはり行政だけではやれることに限りがありますので、行政と地区の皆さん、行政と民間の皆さんと力を合わすと、1+1が2じゃなくて3になり4になり5になることができますので、今日はそんなタウンミーティングになればと思っています。よろしく願いします。

【男性】 今、全国的にも問題になっている限界集落に関連してですが、五明地区でも少子高齢化ということで、現在高齢化率が40パーセントを越えています。25～6年前に中学校が伊台に統合されまして、現在、地域の小学校は1つという状態です。つい最近ですが、地区に唯一ありました石油スタンド、これも今年の8月には閉鎖されるという状況になっていて、10年先20年先がどういったことになるか不安な気持ちでいます。市長さんがさっき言われましたように、まちづくり協議会を立ち上げて5年ほどたっています。しかし、いろいろやる中で限界もあり、どうしても行政のお力、後押しが不可欠と感じています。今日市長さんをお願いです

が、こういった存続の危機にあるような地域に対して地域の定住人口が増えるような施策といいますか、地域限定の特別な対策といいますか、そういったことがお願いできないかと考えています。例えば、いろいろ問題もあろうかと思いますが、地域に住む方には市県民税の低減やとりわけ宅地と建物の固定資産税の低減、そのほか道路をつくることのことです。道路をつくるときにはその交通量や経済効果がどうかとか、その辺を考えて、この地域には道路をつくろう、これはちょっと後回しとか、考えているかと思いますが、そういった従来市内一律の考えや基準ではなく、地域の存続を最優先で、これはすべての地域という意味ではなくて地域限定ということで考えていただくなど、色んな分野で後押ししていただけるようなことがあれば、検討をお願いしたいなと思います。

【市長】 わかりました。私はできるだけ皆さんの顔を見ながらしゃべりたいので起立をしてしゃべりますが、職員は手元に細かい数字が入った資料がありますので、座ったままで失礼させていただきます。今日は地域おこし協力隊のことについて必ず触れたいなと思っていました。先ほど、ご意見をいただきましたが、まさに五明がふさわしいのではないかなと思いますので、地域おこし協力隊について説明させていただきます。私が先に言っていれば皆さんの手が上がりやすかったと思うのですが、今日は部長、副部長、課長、合計8名のそれぞれの専門家が来ています。1人ずつご紹介します。唐崎市民部長です。石井都市・交通計画課長です。交通の面やまちづくり、都市整備の専門家です。続いて、中田産業経済部副部長兼農林水産課長です。農林水産全般です。そして、野本保健福祉部副部長兼保健福祉政策課長です。福祉の面で幅広く担当しています。教育委員会事務局の家串次長です。主に教育面です。後ろの方に控えているのは、中島産業経済部副部長兼地域経済課長です。経済全般です。松本環境副部長兼環境モデル都市推進課長です。ゴミのことや清掃関係などです。そして、中矢消防局次長兼総務課長です。消防や危機管理全般です。そして、これは出るだろうと思っているのが、イノシシ、サル、シカ等の対策でございますが、芳之内鳥獣対策担当課長です。これだけの専門家が来ていますので、遠慮なくこれどうやろうか、みたいなことを聞いていただいたらと思います。ぱっと聞いて仕事がわかりやすいようにと思ひまして、鳥獣対策担当課長ですが、私は、本当はイノシシ課長という名前にしたかったのですが、「いやいや、市長、サルもあるでしょう、シカもあるでしょう」と言われて、一節に花札みたいだ、猪鹿蝶みたいなことを言われました。ちょっと冗談も入りましたが、できるだけ仕事はわかりやすくと思っています。今日は鳥獣対策担当課長も来ていますので、いろいろ遠慮なく聞いていただけたらと思います。では、地域おこし協力隊について、わかりやすくパワ

ーポイントもつくってきました。

【市民部長】 市民部長の唐崎でございます。よろしくお願ひいたします。スクリーンを利用しまして地域おこし協力隊の概要についてご説明をさせていただきます。この地域おこし協力隊でございますが、総務省が地方への移住定住の促進という目的で平成21年度に創設したものです。都市地域から過疎地域などの条件の不利な地域に生活の拠点を移してもらって、地域活動を希望する方を地方公共団体が「地域おこし協力隊」として委嘱をする制度で、現在全国で400を超える自治体で1,500人を超える隊員が活動をしています。この地域おこし協力隊は、全国各地で成功事例がメディアでも大きく取り上げられるようになり、松山市内でも複数の地域から導入に関する相談や要望があり、松山市では中山間地域の移住定住対策、あるいは、活性化対策として28年度からこの制度を導入することにいたしました。この隊員の活動期間はおおむね1年以上3年以下ということです。最長3年の活動期間を終えた後も定住することを基本とする制度ですが、定住を義務づけるものではありません。全国平均で約6割の隊員が定住しているというデータがありますが、愛媛県内では現在20名程度が定住してしまして、これは約8割にあたります。地域おこし協力隊員は自分の才能や能力を生かした活動をしたいたか、理想とする暮らしや生きがいを見つけないなどの思いを持って応募している方が多いようです。こちらの山間部や過疎地域での取り組みの事例として、地域産品を活用した加工品の企画、製造、販売ですとか、地域の空き家を活用した交流・拠点づくり、耕作放棄地の利用などの例があります。協力隊を受け入れる地域側のメリットとしては、「地域外の立場、目線から客観的な意見を聞くことができる」、あるいは、「地場産業の担い手を育成できる」、「地域課題を検討する機会が得られる」などが挙げられています。愛媛県内の協力隊の活動事例をご紹介します。今治市上浦町では「しまなみイノシシ活用隊」として、イノシシの皮を加工して販売をしていますほか、伊予市郡中では商店街の空き店舗を活用して「郡中まち元気サロン 来良夢（こらむ）」の運営サポートを行っています。また、伊予市双海町では、軽トラ市やJR下灘駅を拠点に演劇や紙芝居などのイベントを開催したり、鱧（はも）のブランド化などの活動をしている事例等がございます。以上簡単にではございますが、地域おこし協力隊の概要の説明です。

【市長】 こういう制度もあります。最初に申し上げましたが、人口減少社会、少子高齢化社会は日本全体の悩みで、国・総務省も何とかせないかんと思っています。総務省は、地方自治の窓口と言いましょか、国の窓口と言いましょか、隊員数を平成28年度までに3,000人に増

やりたいとしています。ですので、地区の皆さんのお気持ちということになりますけれども、こういう制度もあります。仮に、五明地区さんが手を上げるのであれば、どのようなスケジュールで進んでいくのでしょうか。

【市民部長】 スケジュールをご説明いたします。28年度からの導入ということで、5月頃に隊員の募集をいたします。その後、応募いただいた方の選考や委嘱の手続きを経まして、早ければ8月ぐらいから活動していただけるよう進めていきたいと思っています。

【市長】 ちょっとわかりにくかったかもしれません。できるだけ柔らかくご説明したつもりではありますが。どうですかね、今の制度を聞かれて。

【男性】 どうしても人手不足の地域ですので、そういったことで派遣していただければ大助かりします。もちろん地元の受け入れ態勢もありますが、最初にお願いしました、定住するために住みやすい、協力隊以外の方も地域へと入りやすいような条件設定といえますか環境整備といえますか、特に市県民税でいうと全市的な問題もあって難しいかなと思うんですけど、特区に該当するかどうかわからないですが、地域を限定して何かしらの対策をとっていただければありがたいと思っています。

【市長】 1回目のタウンミーティングだったと思います。よく覚えているのが、ある先生が言われたのですが、この五明から市内まで車で15～20分ぐらいで着きますよと。確かに五明から大街道までのバスは、30分ぐらいだと思います。一般の車で行くと15～20分ぐらいで着くのではないかと思います。ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、私は北条に実家があり、実は五明にも親戚がいます。196号線、バイパスができていないときは、私の実家から松山市内まで車で40分ぐらいかかっていたんですね。それを考えたらまだ五明地区は比較的条件がいいかなと。また、ジャイステーションや陶芸教室をされているような話も伺っていますし、竹林のことなど動きが見えていますので、あまり皆さんがうつむかずに前向きにやっていただくのが大事だと思います。就任させていただいて5年4カ月というところですが、なかなか難しいのは政治としてこれはやりましょうという部分と公平性という部分があるんですね。市内41地区の中で、例えば五明地区だけ特別にやったならば、その理由は何なの、五明とよく似た地域はあるじゃないか、山間地域であれば五明も坂本も一緒じゃないか、じゃあ何で五明だけそうするの、という理由も必要になりますので、そういうところが行政の悩みでもあります。しかし、政治としてやらなければいけないところもありますので、バランスを取りながらやっていければと思います。

【男性】 前方は、市長さんにはお世話になりました。今日はタウンミー

ティングということで、私もまちづくりをやっていて一応引退し、今、区長会長をさせてもらっています。この校区のことについていろいろと苦勞しながら考え、またこれからのことも考えながら、タウンミーティングの中で市長さんはじめ皆さんにお願いしたいことは、言えばきりが無いぐらいたくさんありますが、今言われたように、特定してこの五明だけよくしてくれというのも無理な話だとも考えています。例を挙げていけば、この山間部は、先ほど言っていたイノシシやシカ、サルの問題があります。やはり山が荒れている、食べ物がないということが一番の原因で、それで市内、まちなかに出てくるという感じは受けています。そして、交通の面でも、現在はバス路線が4～5本ぐらい、これもいつどうなるか、交通課でもっと検討してもらって、1年でも長く、バス路線が使えるような方法をとっていただきたいと思います。そして廃棄物についても、我々も年に1、2度研修にも行かせてもらって、いろいろやらせてもらっていますが、なかなか分別が間に合わないところや迷惑をかけている部分もあると思います。こういうものは挙げていけばきりが無いぐらい、色んな問題がこの田舎にもありますが、1つでも解決できる方法を見出すには市長さんを始め、皆さんにお願いしないと仕方がないかなと思っています。もちろん我々も努力していかないかと思っています。農協でもお話をしましたが、今の制度で政府のほうで地方創生という言葉がありますが、言い方が悪いですけれども、市が、利用できて、活性化につなげることができるような方法はないのかと、私自身は考えています。市では、どういうふうにしてその辺のことができるのか、できないのか、わからないところがありますし、先ほど言っていたように人口が減ると財政難になるということは我々も感じています。それをどういうふうにするかは、政府や県に頼らなければならないという問題もありますが、その辺の糸口が何かどこかにあるのかなとも個人的には思っています。まとまった話にはならないと思いますが、その辺の方法を市長さんをはじめ、皆さんにお願いして考えていただければと思っていますので、よろしくお願いします。

【市長】 わかりました。有害鳥獣対策や地方創生、地域を元気にということで、松山市では新しいリフォーム補助をスタートさせますのでそのことについてご紹介させていただきます。先ほど言っていた思い出しましたが、日浦地区は、五明地区と同じく山間ですが、日浦地区のタウンミーティングで、言っていたいて決断しやらせていただくことになったのが、山間での地籍調査です。これが公平だけではない考え方ですね。実は日浦地区のタウンミーティングのときに、「市長、もう山の地籍調査をやってもらわんと、誰がどこを持っているのかわからん。そうなったら手がつけられん状態になるけん、まちなかでしているのはわかるけど、

山での地籍調査も考えてくれんか」と言われて、山間での地籍調査に入ることになりました。人手やお金がだいぶかかる話ですけど、確かに、今放っておいたらますます持ち主がわからなくなるということで、地籍調査に入らせていただきました。公平性とバランスをとりながらやっていきたいと思えます。鳥獣対策について、申し上げます。今日は、わかりやすくパワーポイントにまとめてきましたが、五明地区では前回と、前々回のタウンミーティングで、有害鳥獣対策についてたくさんご意見いただきました。やはり農作物の被害が深刻化していますので、まずは数そのものを減らそうということで、地域の皆さんにもご協力いただきながらやってきました。これは、五明地区のタウンミーティングで言っていたから枠が広がったんですよ。前回の五明地区のタウンミーティングで、イノシシとサルだけではなくて、シカとカラスを捕獲の補助対象にしてほしいというご意見をいただきました。あれが平成25年の12月でしたが、あくる年、4カ月後の平成26年の4月からイノシシとサルに加えまして、シカとカラスに対しても捕獲報奨金をお支払いできるようになりました。皆さんが言ってくれたから広げることができました。地域の声を届けていただくことが非常に大事なことです。今、市全体の捕獲頭数は、シカは平成26年が134頭、平成27年度2月末時点で221頭と大きく増加して捕獲しているということです。イノシシは2月末時点で1,843頭と昨年度並みに捕獲しています。加えて、イノシシを捕獲する箱わなの設置や農地への侵入を防ぐ鉄柵・電気柵の設置助成を行いまして、被害の軽減につなげています。あとで鳥獣対策担当課長から、箱わなやセンサーのことなどをわかりやすく説明させていただきます。そして狩猟免許を持った方の高齢化が進んでいますので、農業をされる方が狩猟免許を取得する経費を助成していきまして、これまでに126人の狩猟者が誕生しています。サルは捕獲が難しく、サル対策として効果があるのが、地道な追い払い活動です。専門の訓練所が、愛媛にあったらいいですが、実は四国には徳島にあります。まさに犬猿の仲というのは本当で、平成26年4月から徳島の訓練所で訓練をした犬がサルを追い払うモンキードッグ事業に入っていまして、今、北条の河野と栗井で1頭ずつ、そして伊台と坂本で1頭ずつが活動しています。導入した地区では被害が軽減するなど効果が出ています。皆さんもご存知かもしれませんが、愛媛大学の農学部に、こういうイノシシ、サル、有害鳥獣対策の専門家の女性の先生がいらっしゃいます。せっかく松山に愛大の農学部があるので、連携させていただきましょうよ、ということでもらせていただいています。このような有害鳥獣対策についての予算ですが、平成22年度が約1,200万円だったのに対して、今度の4月から、平成28年度、新年度は6,389万1千円と、約5倍強に増やし、拡充

して取り組んでいます。こうした対策で市全体での農作物の被害額は、平成24年度が4,500万円ほどだったのが、今は3,000万円近くまで被害額が減少してきているということです。五明はイノシシ、サル被害が多いかと思しますので、センサーや箱わなのことを鳥獣対策担当課長からご説明します。

【鳥獣対策担当課長】 先ほども市長がご説明しましたように、箱わなを設置した場合、松山市から補助をしまして、五明地区にも2基設置しています。そして、箱わなだけではなく、感知センサー付きの箱わなを導入しています。その感知センサーによりまして、それまで、箱わなでは、どちらかといえば小さい幼獣のイノシシが捕獲されていましたが、その感知センサーで大きいイノシシが入ったときにだけ、扉が閉まるという装置を五明地区にも2基設置しています。今後とも成獣の捕獲に取り組んでいただけたらと思います。

【市長】 イノシシを捕獲する箱わなを各猟友会支部のご要望によって、毎年10基ずつ購入して捕獲の強化を進めています。また芳之内課長が申し上げましたように、どうせやったら、命があるものでかわいそうですけど、子どもを獲るよりは親を獲ったほうが、子どもを産む数は全然違いますので、親のイノシシを捕獲するようにしています。また中島地区にセンサー付きわなの捕獲名人、うまい方がいらっしゃいますので、その方を講師に迎えた研修会なども開催できますので、遠慮なく鳥獣対策担当まで言ってもらったらと思いますし、先ほどのモンキードッグも、五明で導入したいという方がいらっしゃいましたら、農林水産課まで言っていただけたらと思います。これは地区のご協力も必要です。ざっと言いますと、「あんたのそこ、モンキードッグ飼ったらしいけど、わしのとこの畑通ってもらったら困るが」みたいなことにならないよう、地区として「モンキードッグがいるのがわかった、協力しよう」という、地区のご協力も必要になるということでございます。あとは、バスの件について、石井課長お願いします。

【都市・交通計画課長】 都市・交通計画課の石井です。よろしくお願ひします。先ほどの地籍調査の補足をさせていただきたいと思います。平成28年度、来年度ですけれども、新たに恩地地区で地籍測量に必用な基準点を設置することになっています。それと、平成29年には上総町のほうで下準備をすることになっていますので、ご報告します。次に、バスですが、五明地区については平日が8便、土日が6便、現在伊予鉄道さんによって運行されています。これも、平成21年あたりから伊予鉄道さんが減便したいという話がありましたが、地元の方と計6回ワークショップをして、維持存続という形になっています。当時の平成22年あたりに比べますと、

バスの赤字も増えていまして、さらにバスの運転手不足という問題があります。できるだけ存続したいということで、市も事業者さんに補助を増額するなどいろいろ話をしていますけれども、まずは皆さまに使っていただくのが存続の条件になりますので、極力利用をお願いしたいと思っています。

【市長】 伊予鉄道さんは公共交通とはいえ、民間企業です。伊予鉄道さんが皆さんとのワークショップをしていなかったら、多分減便という流れになったと思いますが、市役所と伊予鉄道さんと、地元の皆さま方とのワークショップや作業部会をすることによって、今は減便を免れているという状況です。できるだけ利用していただくのがいいかなと思います。あとは、リフォーム。この間の3月の議会で承認をいただきまして、この4月から、「わが家のリフォーム応援事業」が始まります。これを使って、五明にも移住して来られる方がいらっしゃるといいなと思いますが、色々なタイプがありますので、ざっと言います。松山に移住を希望される方が住宅を買って移住する際、住宅を長寿命化する、省エネ化する、バリアフリー化する、耐震改修をする、子育て世代の住む環境の整備などのリフォーム工事を行う場合はこの補助制度を利用することができます。この5月から始まるリフォームの制度は色々な加算措置がありますが、条件にあった場合は最大で100万円まで補助することができます。移住・定住を目指してこういうリフォームの制度もつくりましたので、関心を持っていただけたらと思います。答えてもらってないみたいなところはありますか。いくつか質問されましたが大丈夫ですか。

【男性】 地方創生の件でもう少し何かいい方法はないかなと。

【市長】 そうですね。地方創生絡みで言うと、今のリフォームなどいくつか策はありますが、今ご紹介できるものを紹介させていただきました。

【男性】 市長さんと芳之内課長さんに、言おうと思っていたことをほとんどご説明していただきました。駆除に関しましては、市長さんを始め、職員の方々には大変お世話になっています。現在も、2月1日から4月30日まで駆除の許可をいただき捕獲中です。現状では、今日までイノシシを11頭、シカを4頭捕獲しています。それからお礼ですが、先ほど言われた、大型の捕獲檻とセンサーを2つ貸していただきまして、2カ所に分散して管理しています。聞くところによりますと、檻1つが10万円近く、センサーもそれに近い額だと聞いていますが、2つ貸していただきまして、またこれから能率が上がると思います。それからモンキードッグの件ですが、芳之内課長さんから年末だったか電話がありまして、猟友会を中心に一般の人にも何人か犬を飼ってくれんかということ相談しましたが、自

分の仕事が忙しいからそこまではちょっとやれんという方がほとんどだったので、まちづくり協議会に頼んでそういった人ができるようにしていただいたらと思っています。それと1つ気が付いていることは、五明校区のイノシシが非常に減りました。数を数えたわけではありませんが、我々はわなをかけるときに、山の中の獣道を歩いてみて、足跡があるようなところにわなを仕掛けますが、この足跡にほとんど行き当たらないという状態になっていますので、3年間連続で駆除を続けていますが、その効果が出てきたのかなと思っています。農家の方もこの畑辺りではだいぶ減ってきたと、したがって被害も少ないということを知っていますのでこちらはよい方向に向かっていると思います。以上のようなことですが、今後ともよろしくをお願いします。

【市長】 ありがとうございます。やっぱりイノシシが減ってきているとお知らせをいただくとうれしいですね。やってきたことの効果が出るとうれしいものです。ありがとうございます。

【男性】 先ほどリフォームの件が出ましたが、よそから松山市に入るだけでなく、市内からこっちの方にあがってきたり、この五明に住んでいる若者も、例えば家を二世帯住宅にしたりとか、下から上がってくる人にも補助が出るようにしてもらったら助かるなと思います。そのときに、鳥獣被害にも関係しますが、杉やヒノキが大きくなっている山が大分あるので、そういった木材をどこかで使ってもらわないと、使い道がないんですよ。4～50年前に植えた木が、大きくなっているのがたくさん残っています。もし、リフォームや新築をするときに、市でも、そういった木材を使っていただいたら、切り出した後に、落葉樹を植えられます。最初のタウンミーティングのときに、言われた方がいましたが、山に餌がないと。先ほど山が荒れているというご意見があったと思いますが、杉やヒノキを切った後に、どんぐりなどを植えていったら、山が昔に戻って、イノシシやシカの餌もできるし、どちらにしても針葉樹である、杉やヒノキを少しでも減らしていつてもらいたいなという気持ちがあります。

【市長】 はい、わかりました。リフォームの関係ですが、消費税が5パーセントから8パーセントになるということで、松山の経済が悪くなったのではいけないということで、住宅リフォーム補助制度をつくって、実はこれまで2年やってまいりました。今回は、地方創生の絡みで、また少しリフォームの形を切り替えてやっています。補足をお願いします。

【都市・交通計画課長】 先ほど市長が言いました「松山市わが家のリフォーム応援事業」が、平成28年5月から始まります。まずは、長寿命化やバリアフリー、耐震、子育て支援などに対するリフォームに対して、上

限が30万円の補助が出ます。それに加算して、松山市以外から変わって来られる方がいた場合は、最大30万円。新たに中古住宅を購入してリフォームしたという方に対しては10万円の加算。そして、ここがこの地区に一番関係があると思いますけれども、新たに三世代同居または近所に住むという方に対しては30万円の加算があります。同居者に子どもが3人以上いるというような条件がありますが、例えばこちらに住まわれている方の子どもさんが、五明地区に戻ってきたいという場合にこの制度は使えるようになりますので、ぜひ利用していただけたらと思っています。

【市長】 農林水産課から林業のことで言えることはありますか

【農林水産課長】 農林水産課の中田です。今おっしゃられた木材使用、これは、五明地区に限らず、山間部では本当に切実な問題と認識しています。どの地区でも木は大きくなる、その前になかなか間伐もできない、木材価格は安い、そういう状態なので、市ができることで、例えば水源林涵養として五明地区も含めて間伐などもやらせていただいています。もう1つの木材使用、木材利用につきましては、民間ではなかなか難しいところがありますが、公共建築、例えば市が関わっていくような建物を建築する際には、五明地区だけというわけにはいかないですが、できるだけ木材を使って、木造化していただくようなお願いを農林水産課からもしているところです。そのことを受けまして、各学校の建築が法律に抵触しないような範囲で、できるだけ木造化を、木をふんだんに使った木質化を図っていただいているところです。

【市長】 この間、50年ぐらい前の古い建物だった東雲小学校が、新しくなりました。見学に行きましたが、元々4階建ての鉄筋の建物ですけど、木質化といいまして、中は木をできるだけふんだんに使おうということにしましたら、この五明公民館のように非常にあったかいよい校舎になっていました。私も実は北条の実家で小さいときに、「おまえはこのヒノキや杉で家を建てるんぞ」って言われて、結局建てることにはならなかったですけども、そのような経験があります。皆さんと一緒にじゃないかなと思います。木の大事さも知っているつもりですので、東雲小学校で木質化をしたように、できるだけ木を使っていきたいと思っています。

【男性】 テーマ2「地域の課題」ということで、自主防、防災、また消防にも関係しますが、道路について質問します。市道五明7号線だと思えますが、城山と恩地間で、一部50～60メートルほど、整備されていない道路があります。乗用車は通れるが狭いところです。これが城山、大崎谷の住民の唯一の生活道路となっています。片方、向かって右側は、約9～10メートルほど、90度の崖で河川となっています。これが道路の崩

落や土砂崩れでつぶれてしまうと、孤立化ということにもなりかねません。私が以前消防団にいたころは、恩地で3件の住宅火災が発生しました。このとき、この道路を大型のタンク車も通行しています。そのときは、山際の方に車輪を乗り上げて通行しましたが、これが道路の崩落にあったり、川の方に道路が崩れて、車が転落すると、人身事故にもなりかねないということもあり、この道路をなんとか整備していただきたいということでお願いをしたい。地元からも要望を出していると思いますが、以前聞いた話では、10年ぐらい前に出していたということですが、その辺を考えていただきたいと思います。

【市長】 五明公民館から何分ぐらいのところですか。

【男性】 5分ぐらいです。

【都市・交通計画課長】 以前から、この五明5号、6号、7号線については、お困りな点をお伺いしています。以前は、県の事業である地域振興整備として、県が事業をしていましたが、それが廃止になり、現在中断している状況です。特に、道幅が狭いので、まずは待避所の設置など、そのような整備区間を限定した取り組みをさせていただけたらと思っています。

【市長】 道路建設課には言われているのでしょうか。10年前になるかもしれないと。わかりました。今ご意見をいただいたので、ワンストップで構いません。私から道路建設課に言うておきます。改めて確認ですが、この奥には何軒、何人ぐらいお住まいですか。

【男性】 15、6軒ぐらいです。

【市長】 15、6軒の唯一の道が寸断されたら、行き来ができず他の道はないと。

【男性】 7月の避難勧告が出たときに、木が道路に落ちていたんです。私は消防団の分団長もしていますので、消防で出動していて、帰ろうと思った際、通れませんでしたので、木をのけて、川側を通れば通れると思い、通って帰りました。後日見ると、川の向こうは絶壁で、えぐれていたんです。後で考えて恐ろしかったです。

【市長】 よくわかりました。持ち帰らせていただいたらと思います。

【市長】 私からお伺いしたいことがあります。陶芸教室をされるような話を聞いていまして、まちづくり協議会さんが五明地区の古民家を無償で借り受けて、古民家を活用した陶芸のギャラリーを製作中ということで、28年度末頃、平成29年3月末頃までには、施工を完了する予定と伺っています。地元の土は陶芸に使えるのですか。まちづくり協議会で誰か詳しい方はいらっしゃいますか。

【男性】 古民家は、現在修理中で、ちょうどその横の納屋をまだ使っています。地元で陶芸の匠といますか、そのような60歳近い人がいて、後継ぎが欲しいということで、陶芸教室といっても、一過性の趣味でやるのではなくて、できれば後継ぎをつくるような形で、今まで人が住んでいなかった古民家のほうです。土は、五明ではとれませんので、市内で買ってきてつくります。少人数、できれば4～5人ぐらいは欲しいと思いますが2人でも3人でも、技術を絶やさないように、後を継げる後継者を育成したいと思います。ですから、古民家では、できあがった焼物やそのほかの作品を展示して、地域の方に気軽に立ち寄ってもらって、いろいろとお話ができるようなふれあいの館をつくっています。

【市長】 わかりました。ありがとうございました。私は、前の仕事で県内各地をいろいろ行かせていただきましたが、陶芸はどちらかというと海端ではなくて山間が似合いますね。やはり登り窯のような窯があったりして、その煙が立ちのぼっている光景は、山間によく似合うと思います。焼物をすると土をひねるところがワンステップと焼きあがるまでに時間がかかって、また訪ねてくれるというのが1回きりで終わらない陶芸の良さ、焼物の良さだというふうに伺ったことがあります。そして、もう1つ、その器を使って、コーヒーを飲んでみたいというふうな作用もあるので、陶芸や焼物は、まちづくりにはいいと聞いたことがありますし、そういうことを知っています。また、体力的にも人生の先輩方がされる趣味にもいいですし、若い女性も結構陶芸が好きなので、市内中心部からたったの15分ですから、五明はとてもいいのではないかなと思っています。ほかにも伺いたいのですが、イタドリはどんな具合でしょうか。うまく進んでいるのでしょうか。

【男性】 産業部の部長さんが、積極的に動いてくれています。それで、一部最初はモデル園みたいな感じで、神次郎町で10アールはないぐらいのところに始めたんです。もう2年、3年ぐらいになります。これではいかんということで、山間のここから600メートルぐらい奥へ荒地を掘り起こしました。これも1反ぐらいはあると思います。とりあえずイタドリを育てるには、雑草とのせめぎあいになりますので、それをなんとか抑えたいということで、防草シートを敷いて、今は定植の準備をしている段階です。順次、面積を増やして行って、イタドリを育てていきたいと思っています。

【男性】 最初にご説明いただきました地域おこし協力隊の件ですが、実は今年か去年だったか、先進地の今治、大三島に行かせていただきました。

そこで、地域おこし協力隊で5人ほど来られて、お話をさせていただきましたが、その中で思いましたことは、国の事業ですので、制約はあると思いますが、最大限松山市は、可能な限り制約を緩めていただきたいということです。地域おこし協力隊のメンバーの方と話した中で、ちょっと制約があつて、「これはできんのよ」「これはいかんのよ」というのが、かなり切実に聞きましたので、可能な限り制約を拡大解釈していただいて、そこで活動できる条件を緩めていただいたら助かるなと思います。

【市長】 例え、どの辺が難しいハードルでしたか。

【男性】 例え、その地域に入って、「個人のお手伝いみたいなことはできません」と言っていましたし、それから、普通の定時の時間帯を外れてほかに自分がアルバイトをすることも本来はいけないというようなことも聞きました。ですから、新しく入ってきた人が、動きやすいといひますか、働きやすいようなことを考えていただいたら地域としても助かるかなと感じました。

【市民部長】 言われるように、地域に入って、個人の家のお手伝いというのは、なかなか難しいと思います。国もお金を出す制度ですので、どうしても制約はあるのかなと思います。地方公共団体の公務員という位置づけで国が補助する制度になっていますので、そういった面で勤務の形などの制約はあると思います。五明地区で受け入れるとなりますと、五明地区の方々が都会から来た人にどういったことをしてもらいたいかをこれからお話しして、5月に募集するようになります。その地元の声と募集したときに応募してくる方々の考え方をうまく聞きながら、受け入れる側も来る側も納得して長くいられるように、制約を抑えながら、いい方に来ていただけるよう進めていきたいと思っています。

【男性】 10年ほど前に子どもがアレルギー体質だったので、環境のいいところに住みたいということで、こちらに移住してきました。また、4月からは、長男は中学生で、長女が幼稚園の年長になりますが、現役で子育てをしているものですから、先ほどもお話がありましたが、1つだけある小学校のことが気になります。もう一昨年になりますか、文部科学省が各学校に対して、規模の見直しをしなさいという通達を出したことがあつたかと思います。それが、どういう形でこちらに来ているかわからないのですが、五明小学校は、通学区域弾力化で市内全域から通学が可能で、全校生徒が20名程度だったんですが、半分以上が校区外の生徒さんです。そのようなことで、弾力化を進めていただかなければならないんですけども、その通達を受けて、五明小学校の将来について、今市で何か検討なさっているのかどうかお伺いしたいと思っています。

【生涯学習政策課長】 教育委員会の家串と申します。よろしく申し上げます。おっしゃられるように、文部科学省から、平成27年の1月に通知がありました。ただ、適正な規模での学校のあり方というものは従来からきているところですが、今回は少子化に対応した活力ある学校づくりという観点から、通知があったものです。これについては、ご指摘のとおり、学校統合による魅力ある学校づくりですとか、小規模校のデメリットの克服を図りつつ、存続を選択するとか色んな方策がある中で、示しているところです。五明小学校では、平成27年度は20名の生徒さんがいて、校区外からの通学が8名、校区内は12名でした。来年度については、17名となり、校区外通学が6名、校区内で11名の見込みです。全市域の選択制をとって弾力的運用をしているところで、少人数の特性を生かして、五明地区の豊かな自然の中で、さまざまな体験学習を実施するよう、質の高い教育推進を目標としています。ご指摘のとおり、小学校は、こうした教育の場以外にも、各地域のコミュニティの核であるとか、さまざまな役割がありますので、現在の学校規模を保ちながら、保護者の方々、地域住民の方々と共通理解を図りながら、進めていきたいと考えています。

【市長】 これは前の仕事の経験ですけれども、愛媛県内各地へ行かせていただいて、人口が減少して、学校がなくなってしまって、町の中心ですから、火が消えたようにすごくさみしくなった町を見てまいりました。ですので、私の気持ちとしては、学校は、できるだけ存続をしていきたいというふうに思っています。日浦小学校、中学校で行われる日浦地区の運動会に行ったことがありますして、そこで校長先生とお話していたときに、「市長さんね、日浦の子どもたちはね、都会の大きな学校では、体験できないことを体験しているんですよ。」「え、どういうことですか。」と聞くと、「地元の方と一緒に田植えしたり、それを育てて収穫したり、そういう経験ができたとか、都会の学校だとリーダーの子はずっとリーダーで、リーダーでない子は、ずっとそうではない大きな学校もありますけど、この日浦だとリーダーを必ず経験して卒業していくんですよ。1学年が少ないものですから。こういう経験はすごく貴重なんじゃないでしょうかね。」というふうに言われました。確かにそうだなと。人が多ければいい、人が少なければ悪いのではなくて、それぞれの学校に特徴があると思います。例えば、一般的な話ですけれども、人数がかなり少なくなって3人とか2人とかになると、社会性を培うにはどうかなということ、別の学校に移ることを選ばれる親御さんもいらっしゃるけれども、できる限り学校は存続していきたいなと思っています。

【男性】 できるだけ存続していただけるということで、少し安心しまし

たが、それでも、私が6年間通学させた、中にいるものの感じでも路線バスの今の減り方というのはかなり心配な状況だと思います。通学バスを出していただいているのですが、あれが結構助け舟になっています。その運用やコース変更などは契約の関係かと思いますが、1年ないし2年に1回しかできないという話も聞きますので、その辺を柔軟に対応していただければ、もう少し助かるかなと思います。これから生徒数を増やして、地元の間人が出ていってしまうのを防ぐには、子どもさんのおられる世帯の移住促進を進めていただければよいと思いますが、移住促進にあたっては、特に子育て世帯を助けるという施策もなされているんですか。

【市長】 子育て支援は、かなり力を入れてやっていますが、今、お話を伺って、やはり子育て世帯の方が、例えば五明に移って来られたら、その分ぐっと人数も増えますので、そのあたりも考えながらやっていきたいと思っています。できるだけ、スクールバスも弾力的な運営を検討していきたいと思っています。

【男性】 私はここ五明が生まれ育った場所ではないですが、この10年ぐらいこちらの皆さんにお世話になって、ご存知の方もいると思いますが、子どもを預かって学校にも通わせています。小学校の存続、幼稚園の存続についてお願いしたかったんですが、今お話がありましたので、私から市長さんに、先日の卒業式のお礼を申し上げたいと思います。先日の卒業式の折に市長さんに5人のそれぞれの子どもの名前を呼んでいただいて、おめでとうという言葉がビデオメッセージで言ってくれまして、私の子どもも2人卒業生がいて、女の子ですが、非常に喜んでいましたので、これはまさに市長さんのきめ細かい以前からの気配りの真骨頂だなと思ひまして、改めてこの場をお借りしましてお礼を申し上げます。ありがとうございました。先ほどの方がおっしゃるとおり、小学校の存続について、在任中は廃校にならないようどうかよろしく願いいたします。

【市長】 実は、松山市立の小学校の数は55校、中学校は29校ありまして合計84校あります。小学校や中学校の入学式また卒業式は、同じ時刻から始まりますから、市長が行けるのは1校しかありません。以前は幹部職員が代読をしていました。代読もいいのですが、今の時代なので、映写機もあるので全部同じメッセージを同じトーンで見ていただくということでビデオメッセージをやらせていただいています。子どもの名前を言いましょうというのは、職員からの提案で、職員が頑張ってくれているものだと思います。私は、自然に恵まれたところである五明の盆踊りが好きなんですよ。みんなで五明の運動場で輪になって盆踊りをして最後にお父さんお母さんが運動場の奥のところに行って打ち上げ花火をします。ほ

んとにええところやなああって、思います。五明の盆踊りが大好きですけども、本当に心のあったかい方がいらっしゃるなあ、多いなと思います。また、五明の文化祭では、小さい子どもたちが最初の出し物をやりますけど、本当にあったかい気分になりますので、そういうまちづくりを大事にしていきたいなと思います。

【女性】 五明小学校は、なくなっては困るものです。今ちょっと五明っ子クラブの子どもたちに関わらせていただいています。五明っ子クラブは、基本的に地域の人でおこなっていて、専門職がいません。その中で、学校自体に内面や色んな面で支援の必要な子どもたちの人数の割合が大変多くなっています。それは、家族のほうから希望があって、五明小学校に来るという流れで、教育委員会や校長先生を通じて入られると思いますが、割合制限などがあるのか気になります。以前にも、あまりにも多いので市から特別そういう知識のある方を五明っ子に配属してもらえないでしょうかというお願いをしたところ、程度は軽いほうで、もっとたくさん大変な子どももいますので無理ですよっていう返事だったんです。スタッフとしての人数は増やしていただいても大丈夫なので、もうちょっと頑張ってみてくださいということでした。来年は、人数が少しは減っていますが、五明の子ども自体、地元の子どもの自体の学校生活が、あまりにも普通の生活状態ではなくなってきました。自分たちが普通に授業を受けられる体制になっていないので、少し不安がって、下の学校のほうに行こうかなとかいう方もいたりします。そのあたりがどのようになっているのかなと思って教えていただきたいなと思いました。

【市長】 これは、教育委員会から何かお答えできることはありますか。

【生涯学習政策課長】 この五明っ子クラブについては、地元で非常に熱心に活動されていると認識しています。年間で多いときには300回ぐらいの活動をされたという年もございまして、現在では170回程度と、平均の参加人数にして、13名ほどのお子さんたちが参加され、非常に熱心に活動されていると聞いています。そのような中で、地元の方の学校の宿題であるとか読書、昔の遊びであるとかトールペイント、木工、体力づくりなど非常にご尽力いただいていると認識していきまして、引き続き存続して児童生徒の健全育成に向けて役割を果たしていきたいと考えています。

【市長】 もう少し専門家が入ってケアをみたいなお話もありましたのでいったん持ち帰らせていただいて、改めてきちっとした回答をさせていただいたらと思います。

【男性】 五明っ子クラブの実行委員長をやっておりますので、スタッフ

の方のいろいろな悩みを聞きますし、また反対に学校の悩みなども両方聞きます。1人2人極端に言うと悪い子がいれば、染まりやすい年頃なので、まちからくる、親から離れるというのが解放されたようなところがあるんでしょうね。先生には厳しく言われるから「はい」って言うんだけど、世話をする五明っ子の女性の方々だともう無視というところが出てくるんです。それも、ある程度は子どものことだから、いたし方ない部分もありますが、やはり、それが同じ子どもとして、この子が悪くても怒られぬのに、私が怒られるのはどういうことぞという逆の効果が出てくるわけなんですよね。それが一番怖いのは、弾力化でまちから来た子に影響を受けて、地元の子が、今度は五明小学校へ行かないぞというふうになると問題が大きくなるのではないかと我々は考えているので、その辺をどういうふうにしたらいいかスタッフの人と検討しています。これは学校の校長の問題なのか、教頭の問題なのか、そういう試験的な取り組みみたいなものがあるんでしょうけど、五明の今の状況では、そういう子は2割であると聞いているんですが、それが2割どころか半分以上いるということなので、そうすると、今言うように悪いほうに非常に染まりやすいというのが常にあります。怒ってはいけない、たたいてはいけない、それが当然のことではあるんですが、いうことをきかんと怒鳴りつけるようなところはお互い人間のことでですからあると思います。それはしてはいかん、あれをしてはいかんという、ちょっと制限が強くなってくると。先ほどの方も言われたように存続するためだけにこれをつなげるのか、本当に五明の学校としていい子を育てようとしているのか見解がわからないところが出てくるので、もう1回教育委員会で見直していただければありがたいと思っています。よろしく願いいたします。

【市長】 まさに現場の声を聴かせていただいたと思います。今、先生が放課後も見るというのは現実的に無理なので、地元の方々にご協力いただいて放課後児童クラブとか子ども教室をやっています。そういう中で、先生やったら怒られるけど、地域のおいちゃんおばちゃんやったら怒られんかもしれんみたいなことで羽目を外すことがあるんだなど、確かにそうだと思います。影響されやすいというのも子どもとしてわかりますので、持ち帰らせていただきます。いい現地現場の声を聞かせていただき、皆さんのところに向いてきて本当によかったなあと改めて思いました。

【男性】 先ほどの小学校の絡みで話をさせていただいたらと思います。五明地域でうちの子は1人だけの年がありまして、その保護者をしていました。お話がありました中で、私どものときと学校が違うと思うのが、確かに校区外のほうから来ているお子さんがいるというのもあるんです

が、その中で、学級委員会もないし生徒会も何もないんですよ。学校自体に秩序がないんですよ。五明っ子自体にも秩序がない。だから、上の子でしっかりとしたリーダーがいなかったら、「なんで、お父さんそんなするの？」って言うんです。時々テレビなんかで外の色んな学校の番組を見ると、子どもに「ほら見てごらん。よそはこういうふうに学級委員長がおるんよ。生徒会があるんよ。みんなこんなんよ。」って言うと、「えっそうなん」とか言ったりしたこともあります。また、五明っ子に私もお迎えに行ってみたら、「言葉も暴力になるからしたらいかん、と言われとる」というので、それは違うだろうと私は言っています。「お前なんしよんぞ」「これはこうこうこうでこういうことやけんおまえはいかんことをしとんやないんか」と私は言っています。納得させたらいいんですよ。自分がいいこと、悪いことをどれだけしているかということ。それは言うたらいかんと。それはおかしいやろって。「あの子はしとってなんで僕はいかんの？」と家で言われることもあります。また、五明っ子の車の件も、この間学校で理事会があったときに、新しく来る子とやめる子がいて、その新しい子のほうのルートにしてくださいと言ったら、前会長も学校側もう期間が過ぎていきますので対応しませんというようなことを言われたんです。それはおかしいだろうということ、私らからもちょっと言わせてもらったんですけど、弾力性を持たせてもらいたいなというところがあります。保護者として思っているのが、市内からもっと人をあげてもらうには、お勤めの方の仕事が終わる時間もう少し考えてもらったなら増えるんじゃないかなと思っています。五明の小学校のほうも内部ではいろいろな問題が起こっていますので、その辺も考えていただいたらと思います。

【市長】 まさに切実な地元の声を聴かせていただきました。ありがとうございました。今日、以前からお話を聞いていまして、イタドリのことが産業ということで気になっていましたので、私から逆に質問させていただいたのですが、皆さん地元ですから、ジャイステーションってなんでジャイステーションっていうかご存知ですかね。案外知らなかったりするんですかね。今回、改めて調べてみてすごいなあと思ったんです。ジャイステーションって、国立の北陸先端科学技術大学院大学と関わりがあるというのを皆さんあまりご存知ないですかね。今回調べてみて驚いたのですが、株式会社ジャイステーションさんっていうのは、平成16年に国立の北陸先端科学技術大学院大学初の学生ベンチャーとしてつくられた会社です。私はいつもジャイステーションと書いているのを見てドラえもんのジャイアンが出てくるので、なんでああいう名前なんだろうと思って調べてみたんですが、実は、東京工業大学という立派な大学がありまして、これが

計画してつくったもので、1990年に日本で最初の先端大学としてできたのがこの国立北陸先端科学技術大学院大学なんです。もともと、東京あたりでつくりたかったんだけど、北陸のほうで建てることになった。横文字でいうと、「Japan Advanced Institute of Science and Technology (JAIST)」日本の先端科学技術大学という意味です。北陸にあるので北陸ということですがけれども、このジャイステーションさんは、農産物の栽培技術加工販売など研究開発活動を行って温暖な野菜栽培の適地である松山市に平成18年に本社移転をしてきたものです。栽培温室の建設をはじめ栽培技術の確立を行うと同時に松山市内に直営店を設立してサニーマートさんとコラボレーションしたインショップを松山市内に3店舗運営しています。五明地区の農家の方を中心に契約をして農産物を効率的に販売することで地元の農家の所得向上にも貢献をしようというものです。平成23年には農地の貸し借りも行って認定農業を取得して自社直営農場の運営にも進出、今後は農産物の生産活動販売活動に軸足を置きながら農産加工また、一次産品の加工品の製造販売に取り組んでヒット商品の開発を目指している、というのがジャイステーションになります。今回初めて知ったんですけども、「Japan Advanced Institute of Science and Technology」頭文字が「J、A、I、S、T」ジャイってなっていますけど、そういうところが五明にあるっていうのもまた1つのよさなのではないかなと思います。今日は本当にいろいろと教えていただいてありがとうございました。まちづくり協議会も新たな補助をつくりまして専任の事務員さんを雇用する費用の「事務員雇用補助」や「事務所家賃補助」民間の事務所を借り上げる費用、地域の住民の方にまちづくりを啓発する事業をしたら「特別啓発促進事業」とか、空き家を改修して事務所にする場合の費用「空き家等改修補助」などもつくりましたのでまた、適するものがありましたらご利用していただけたらと思います。今日は、現地現場の声を教えていただいて特に学校の話、五明っ子クラブの話、道の話などさまざまな現場の声を教えていただいてありがとうございました。すぐにできること、ちょっと時間がかかるもの、いろいろあるかと思いますが、みなさんの顔を思い浮かべながら今日いただいた意見に、しっかりと対応していきたいと思います。今日はありがとうございました。

—了—